

広報すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

{ 9/1 }
令和5年(2023年)
No.2360

関東大震災、未曾有の
大災害から100年。

大正12年9月1日、関東大震災が発生し、死者・行方不明者は約10万5000人に上りました。今号では、過去の震災の教訓をもとに、今からできる防災対策をご紹介します。



関東大震災100年

幾多の災害を乗り越えてきた東京
備えよう、明日の防災



今、私たちができること。



特集

命を守る!

～過去の震災から学ぶ防災対策



出典=気象庁ホームページ(「東京駅前の焼け跡、日本橋方面」、東京都復興記念館所蔵資料(一部改変写真)ほか

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課



「広報すぎなみ」は月2回(1・15日)発行。新聞折り込みでの配布のほか、区施設・区内各駅などの広報スタンドに置いています。入手が困難な方には個別配布をしています。ご希望の方は、電話・ファクス・Eメール・LoGoフォームからお申し込みください。

詳細は、区ホームページ(右2次元コード)をご覧ください。



命を守る!

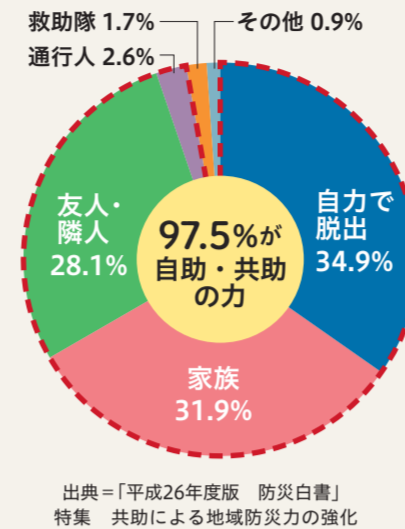
Save your life

過去の震災から学ぶ 防災対策

今からできる

防災対策には、自分自身や家族を守る「自助」、地域で協力して助け合う「共助」、公的機関が行う「公助」の3つがあります。平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、倒壊した建物などから救助隊によって救助されたのはわずか1.7%で、97.5%は自力や家族や友人などの「自助」「共助」の力で救出されています。発災時に、自分や家族の命を守るためには、「自助」「共助」が欠かせません。この機会に、今からできる対策を考えてみませんか？

——問い合わせは、防災課へ。



地震が起こるその前にできること

阪神・淡路大震災では、地震が起こった平成7年1月からの半年間で5488人が、震災が原因で亡くなりました。死因の内訳は、窒息・圧死が4224人と最も多く、焼死・熱傷が504人と続き、そのほとんどが発災当日に亡くなっています。

出典＝兵庫県医師会ホームページ「資料：阪神淡路大震災による人身被害の実態」

まずは、倒れない・燃えない建物にすることで、自分や家族の命を守りましょう

区の助成制度 | 区では、次の事業を実施しています。

- 感震ブレーカー設置支援事業 (右写真) 図 防災課
- 家具転倒防止器具の取り付け 図 65歳以上の方＝高齢者在宅支援課▶心身に障害がある方＝障害者施策課
- 建物の耐震・不燃化 図 市街地整備課
- ブロック塀等安全対策支援 図 市街地整備課



いざというとき、どう避難したらいいの？

居住の継続が可能

自宅などに倒壊・火災などの危険性がない場合は

在宅避難



発災後、倒壊や火災などの危険性がなく自宅などに住み続けられる場合は、自宅などでの避難（在宅避難）を推奨しています。住み慣れた自宅などでの避難は、プライバシーを確保でき、心身へのストレスを軽減することができます。

※発災時はデマ情報に注意して、正しく情報収集しましょう。

■居住継続の判断のポイント

- 余震などが起きても倒壊の危険性がない
- 近隣で火災や土砂崩れなどの危険性がない
- 生活上で大きな支障がない ほか

過去の震災では…

地震によりライフライン（電気・ガス・水道）が被害を受けた場合は、復旧までに時間がかかります。

電気の復旧は比較的早い傾向にありますが、ガス・水道の復旧には時間がかかります。

■復旧までにかかった日数

電気	阪神・淡路大震災	6日
	熊本地震	6日
ガス	阪神・淡路大震災	84日
	熊本地震	16日
水道	阪神・淡路大震災	90日
	熊本地震	105日

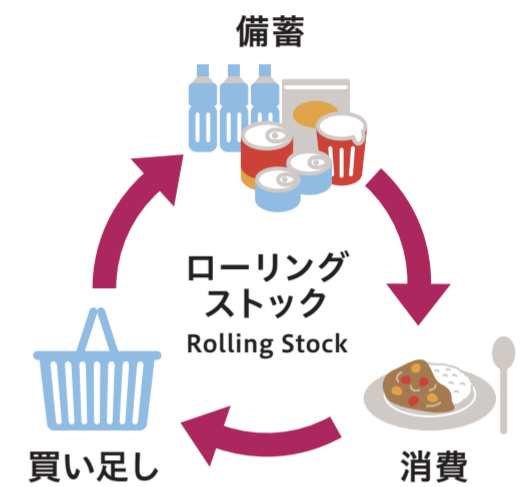
出典＝兵庫県庁ホームページ「阪神淡路大震災の支援・復旧状況」
「平成29年版 情報通信白書」第5章 熊本地震とICT利活用

今からできること

在宅避難に欠かせない食料などを備えよう！

食料や飲料水（一人一日3ℓ）、生活用品、常備薬などを、最低3日分、可能であれば7日分備蓄しましょう。

また、日頃から利用している食料や日用品を少し多めに買い置きして、日常生活の中で定期的に消費しながら新たに買い足し、常に一定量を保つローリングストックの実践もお勧めです。



CHECK! 防災用品のあっせん

区では、防災用品・保存食・携帯用トイレ・衛生用品などのあっせんをしています。詳細は、区ホームページ(右上2次元コード)をご覧ください。



CHECK!

在宅避難でも物資の受け取りができる！避難者登録をご利用ください

発災後、震災救援所で避難者登録を行うことで、在宅避難の方も震災救援所で物資の配給を受けることができます。

在宅避難でも登録すれば、物資を受け取れるのありがたいね！

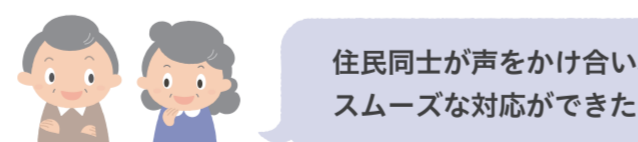


過去の震災では…

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの方が避難所を利用しました。

平常時の防災訓練の参加者が多い地区や普段から住民同士の交流を大切にしている地区では、発災時の避難所での炊き出しや必要な器材の設置などを、トラブルなく円滑に実施できたと報告されています。

■避難所運営についての実際の声



住民一人一人が自主的に足りない部分を探して、手を挙げて実施してくれた

出典＝「東日本大震災における自主防災組織の活動事例集」

今からできること

震災救援所訓練に参加してみよう！

区では、発災時に備え、震災救援所訓練を実施しています。炊き出しなど実際の震災救援所で実施する内容のほか、起震車体験などを実施する場合があります。訓練に参加して、地域で「顔の見える関係」をつくり、運営にどう関わられるのかイメージしてみませんか？

訓練の日程は、区ホームページ(右上2次元コード)からご覧いただけます。

CHECK! YouTubeでも公開中!

YouTube杉並区公式チャンネルでは、震災救援所の資器材の組み立て方を動画で紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

